



Title	IMF管理下の韓国・金大中政権期における社会保障制度改革過程：社会保障の機能変化を中心に
Author(s)	井上, 睦
Citation	
Issue Date	2014-03-24
Type	Thesis or Dissertation
Text Version	none
URL	http://hdl.handle.net/10086/26732
Right	

一橋大学博士学位申請論文審査報告書

平成 26 年 3 月 13 日

申請者 井上睦

論文題目 IMF 管理下の韓国・金大中政権期における社会保障制度改革過程——グローバル市場における社会保障の新たな役割——

審査員 大芝亮、山田敦、秋山信将

1998 年に成立した韓国の金大中政権は、その翌年から社会保障制度の全分野にわたる大幅な改革に着手し、韓国の社会保障を近代的な制度として確立したといわれる。1997 年に生じた経済危機により、IMF の厳しい管理のもとで、緊縮財政政策を余儀なくされた韓国において、なぜ、このような社会保障制度の拡大政策を実施できたのか。本論文は、この重要な問いに対して、金大中政権の政策決定過程を分析することで、回答を得ようとする意欲的な研究である。

本論文の優れた特徴として、第 1 に、韓国の社会保障制度改革に関する国内政治要因と国際経済要因のそれぞれのインパクトを、金大中政権を時期区分して分析している点にある。すなわち、金大中政権は、前半期においては、社会保障制度政策において、国内の労使間の政治交渉や与野党間の駆け引きに強く影響されたといい、後半期に入ると、しだいに、グローバル市場の反応を重視し、制度改革を実施していったことを実証的に明らかにしている。

第 2 に、本論文は、韓国では経済危機に対応するために、緊縮財政政策と国内市場の対外的開放が進められるなかで、社会保障制度改革にはソーシャル・セーフティネットとしての意味があり、これがグローバル市場にとっても投資先としての魅力を高めることになったと主張する。本論文は、韓国の社会保障制度改革の問題を、市場のグローバル化とソーシャル・セーフティネットの充実のひとつの事例としてとらえるものであり、国際政治経済学の理論研究に貢献できるものとして高く評価できる。

第 3 に、政策決定過程の分析として、韓国の国内政治および IMF の政策について、韓国語・日本語・英語の文献を駆使して多面的に実証分析し、また関係者へのインタビューも行い、分析を裏付けている点も優れている。

もとより、改善すべき課題も存在する。国際的要因としてもっぱら IMF の政策に注目しているが、1997 年に始まる韓国の経済危機への対処においては、日本をはじめとする G7 諸国の果たした役割も重要であり、この点の考察には若干物足りなさを感じる。

以上のような論文の評価と口述試験の結果に基づいて、審査員一同は、申請者井上睦氏に一橋大学博士（法学）の学位を授与することが適当であると判断する。